

令和6年度第1回 横浜市広報企画審議会 会議録	
日時	令和6年8月27日(火) 午前10時00分～午前11時55分
開催場所	市庁舎議事堂3階 多目的室
出席者	内田 元久、大場 佳代子、片桐 朋子、門 美由紀、柴田 典子、杉本 ひろみ、筒井 理、壺阪 敏秀、林田 育美、布山 タルト、牧野 昌智、増田 一行、松浦 千恵、吉富 真里
欠席者	佐藤 華名子
開催形態	公開(傍聴者0人)
議題	<p>* 会長・副会長の選任について 令和6年度の会長は片桐朋子委員に、副会長は佐藤華名子委員に決定</p> <p>* 議題 (1) 令和6年度事業概要 (2) 『広報よこはま』事業</p>
議事	<p>議題(1) (事務局) 議題(1)「令和6年度事業概要」説明</p> <p>(片桐会長) ・事務局から説明があった議題(1)「令和6年度事業概要」について、皆様からご意見、ご発言をお願いします。</p> <p>(布山委員) ・フィルムコミッションの相談件数が令和5年度は100件ほど伸びているのに、支援件数は前年度とほぼ同じなのは、何か支障になっているものがあるのか。</p> <p>(事務局) ・関心の高まりやウェブページの充実、丁寧なご案内による信頼関係の構築などにより相談件数が伸びていると考えている。なお、フィルムコミッションが情報提供するだけだと相談件数として計上し、施設との調整を行うなど深く申請に基づいて関わったものを支援件数としている。支援件数が横ばいなのは、何か支障があって上限のようになっているわけではないので、増やしていけるよう取り組んでいきたい。</p> <p>(門委員) ・『広報よこはま』区版でもカタログポケットが利用できるようになり嬉しいことだが、実際に操作してみると、ウェブサイトからアプリに飛んで多言語表示にという流れが難しかった。アクセス方法の説明に多言語版はあるのか、ない場合は作成の予定はいかがか。 ・ネパール語、ヒンドゥー語、ミャンマー語など少数言語を話す市民も増えている。自動翻訳も進んでいるが、そうした言語に対応する予定はあるか。</p> <p>(事務局) ・カタログポケットは民間のサービスを使っているので様式や対応言語に制約がある。また、アクセスが集中すると開くのに時間がかかり、待ち切れずに離脱する方もいるのではないかと、などの課題を認識している。これらは提供企業に相談して対応を考えていきたい。その中で、多言語の見せ方、使い方が分かりやすくなるよう、いただいたご意見を参考にして、取り組んでいきたい。</p>

・ご指摘のとおり、少数言語を使用する市民の方が増えている中で、横浜市多言語広報指針ではやさしい日本語での対応に力を入れることとしている。市が発行する広報印刷物ではまだまだ対応しきれていない面もあるので、庁内での周知を強化していく。

(林田委員)

・シティプロモーション事業や、子育てしやすい街、次世代を共に育むまちの取り組みを進めているのは、市の報道発表やウェブサイトなどでよく見ている。一方で、高齢者・障害者・青少年にも優しいダイバーシティ、インクルージョンの考え方を表に出せないのか。子育て世代以外のあらゆる人々にやさしいということを出せないのか、日ごろから感じている。今日の説明の中では、高齢者・障害者に対する支援について触れられなかった。子育て世代以外への支援の取り組みについて伺いたい。

(事務局)

・現在中期計画に掲げた子育て支援を政策的な柱として打ち出している。一方で障害者・高齢者施策を落としているわけではなく、実施すべきことはきっちり政策として取り組んでいる。その上で、広報・プロモーション上でどのように見せていくかだが、『広報よこはま』毎号の特集などで、高齢者・障害者向けの政策・事業をしっかりと取り上げ、フォローしている。また、『広報よこはま』点字版・音声版もご覧いただけるよう手配している。

(林田委員)

・それらが、より見えるようになればよいと思っている。内容について当事者は分かっていると思うが、当事者以外の方々にも見えるようになってほしい。

(事務局)

・いわゆる「伝わる広報」についてのご指摘だが、しっかり見えて伝わるように工夫を重ねたい。

(杉本委員)

・横浜移住サイトの開設から1年たったところだが、一方で、先月、横浜市の人口が減少したとの記事を目にした。移住サイトの効果は出ているのか、横浜に移住して来られた方の反響や効果などについて教えてほしい。

(事務局)

・昨年度の7か月間で30万件のアクセスをいただいた。川崎市、東京都南部の比較的転入の多い地域の方をターゲットとしており、着実に住みたいと思っただけのような情報を届けるよう発信している。実際、その地域の方にご覧いただいているというアクセスエリア分析もある。

・不動産大手の suumo、at home などと協定を結び、横浜の住まいに関する情報をサイト内で提供しているが、このサイトを通じて実際に移住につながったとの事例は把握できていないが、ここ3年間、市の人口は減少しているが、減少幅が小さくなっている。サイトを通じて一定数の方々に横浜に転入する意欲をお持ちいただけたのでは、と推測している。

.....
議題(2)

(片桐会長)

・次に移りたいと思いますがよろしいでしょうか。それでは、議題(2)『広報よこはま』事業について事務局から説明をお願いします。

(事務局)

議題(2)『広報よこはま』事業について説明

(片桐会長)

・ただ今の事務局からの説明を受けまして、皆様からご意見、ご発言をお願いします。

(内田委員)

・資料13頁の『広報よこはま』が「家に届いている」と、資料3ページの「届いていないから」という回答の数値について、その違いについて伺いたい。

(事務局)

・アンケートの実施時期・手法も異なり、2ページは令和5年度、後半は令和6年度に実施したもので、回答対象者も異なっており、同一には扱えず、結果も違いが生じたと認識している。

・いずれの年度も、「届いていない」と回答した方が一定数いるので、行政情報をどのように届けていくのかという手法を考えることが必要と認識している。

(大場委員)

・私は市の乳幼児一時預かり事業の託児室を運営しているが、住民票を移す前や、引っ越したその日に利用できるのかなど市外からの問合せが増えている。恐らく、移住サイトを見た方からの問合せも含まれているのではと思った。

・子連れで幼稚園・保育園を見学するのは大変なので、引っ越してすぐに子どもを預けたいなどのニーズがあるが、転入届を出す前に予約はできず、仮予約を受けている。

・移住サイトには、転入届を出したその日からあなたをサポートするという市の姿勢を打ち出してほしい。

(事務局)

・サイトには一時預かり事業が充実していることをアピールしているが、例えば、住民票を出した日から利用可能とは書いていない。利用者目線でのご意見であり、サイトの改善に活かしていきたい。

(門委員)

・ウクライナからの避難者に『広報よこはま』の一部を翻訳して Facebook で提供しているが、行事に参加してみたいとの反響がある一方、これまで紙の広報紙は読んでいなかったとの声もいただいている。

・可能なら「これを読むと貴方はこれができます」など書き、自分事として捉えてもらえばよいし、『広報よこはま』の表紙にやさしい日本語と多言語で「必要な情報です。Google Lens で撮って読んでください。」と書くのもよいと思う。

・各区版に載っているイベントも、市民なら他区在住の方でも参加可能なものが多いと聞いている。区版にも「他区の方でも参加できます」との記載があればよい。

(柴田委員)

・『広報よこはま』を横浜市公式 LINE から見ることを知らなかった。

・市サイトでは PDF をダウンロードする形だと思うが、データ容量が大きいので、そこで離

脱する人も多いと思う。カタログポケットが一つの解決策かもしれない。

・普段接している大学生を見ていると、情報を見出しでセレクトして、見たいものだけ見るといふアクセスの仕方が圧倒的に多い。市サイトの『広報よこはま』ページでは、目次の各項目をタップしたくなるが、タップしてもどこにも遷移しない。見たい情報に直接アクセスできるようになるとよい。

・『広報よこはま』は日常生活のどんな場面で見てもらうのか、そうした設計が重要だと思う。世代やターゲットによって見方や状況が異なるが、どのような考えなのか、教えてほしい。

(事務局)

・PDF、カタログポケットが一連のページでしか見ることができないことは課題と感じている。タップすると読みたい記事を読めるなどの工夫については、情報収集を始めたところである。

・行政広報紙なので特定の方向けとは言いつらく、満遍なく、子育て世帯、外国人、障害者、高齢者などにお読みいただき、気づきがあればと考えている。

(柴田委員)

・日常生活でどのような場面で見てもらえるかの設計について補足だが、こういうタイミングで広報紙を見ると自分にどう役立つのかという戦略上の設計ができていると、より手に取ってもらえることにつながると思う。

(杉本委員)

・『広報よこはま』が届かない方がいる件は以前の審議会でも話題になっている。配布は自治会経由が原則だが、非加入の若い世代も多いし、加入率も低下している。自治会非加入の世帯に届かない件を解消するのに、配布ルートを新たに設けることはできないのか。

・ニーズの使い分け、紙媒体、ウェブ、SNSの住み分けが上手くできればよい。

・サイズは持ち運びしやすいA4判だと電車などでも読めてよいが、タブロイド判だと大きくて家でじっくり腰を据えて読まないといけない。

・各月の特集は皆が行きたいイベントとか、市から皆さんにお伝えしなければいけない事項を最初に打ち出し、その後は対象者が異なる個別の細かな情報を入れていくといった方法もあると思う。

・将来的には、ペーパーレス、ウェブに移行するだろうが、過渡期なので、色々な年代に対応するのはかなり難しいが、さまざまな意見を聞いて対応していただきたい。

(事務局)

・家に届いていない場合は市・区役所に連絡していただくと、シルバー人材センターによる補完配布や個別配送を手配する。中にはアプリやウェブで見ると配送不要という方もいる。

・サイズについては、タブロイド判とA4判を比較すると、使える文字や写真の大きさ・種類、作成工程も変わってくるので、悩むところだが、何を優先すべきかで今の形式を選んでいる。

(筒井委員)

・ラジオでも、どう認知してもらおうかという同じような悩みを抱えている。影響力のあるタレントや著名人などから発信してもらおうのも一つの方法だと思う。「この人の言うことなら聞いてみよう、見てみよう」というきっかけを作ってもらえる場合もある。

・学校と連携して、授業で使われているiPadで広報紙を見てもらう、子どもが登場する記事

を載せ、自分の子ども・孫が出ているなら見てみようと思っていただく、なども考えられる。

(吉富委員)

・『広報よこはま』は私の会社にも届いている。新たに横浜で起業した会社向けに説明会を実施している。東京や他県から横浜に来て起業する人が意外に多い。横浜で起業した方も横浜市外に住んでいる場合もあるので、新たに開業した会社にも『広報よこはま』が届くようにしてほしい。

・市外に住んでいるがコンビニにラックがあって広報紙が常に置いてある。一人暮らしをしている学生、社会人に結構取られている。若い世代はネットで見ることもあると思うが、わざわざ検索する必要があるので、普段生活している場所にラックがあって広報紙が置いてあると、手軽に情報を入手してもらえる。

(松浦委員)

・発行している全部数のうち何%が戸別で配布されているのか知りたい。

・私たちの施設にも広報紙を置いているが、新築マンションの入居者で「自治会が無いのでうちには届かない。毎月、ここで貰っている」と言う方もいた。その方は、スポーツイベントを知りたいので毎月、取りに来ているが、広報紙の存在すら知らない入居者もいるのではと話していた。

・施設では「あぶない刑事」や「ピカチュウ」の表紙は目を引いて話題になったし、注目している人が増えているという実感があつた。

・審議会委員を引き受けて他区版も見erようになったが、市版の特集と連携している区もあれば、市版とは異なる内容となっている区もある。市版の特集と区版の特集で統一感があつてもよいのではという気がした。

・名所が紹介されている「よこはま彩発見」と同じような記事が区版でもある。転入してくる人など興味を持つ方も多いので、同じテーマにするなど関連が付けられれば、より印象に残ってよいと思った。

・このほど始まった子育て支援アプリでも、市全体の情報と区・地域の情報との兼ね合いが難しいと実感している。

(事務局)

・配布の状況だが、令和6年1月現在、自治会町内会経由が約67%、マンション管理組合が約4%、シルバー人材センターによる補完配布約12%、となっており、配送で約8割の世帯に届いている。その他、一部の区のコンビニ・イオン、駅のPRボックスが5~6%なので、数字上では全世帯の88%弱に届いている計算になる。

・今年度から、特集について市版と区版の連携を始めている。市版で市全体の動き、区版では地域で活動されている方を紹介するなど、同じテーマを扱うことで、より身近に感じていただくよう工夫している。区民まつり開催など各区独自の重要な情報の掲載があると、市版との連携がとれないこともある。

(増田委員)

・『広報よこはま』では自治会町内会による配送が約67%を占め、一番多くなっている。自治会町内会の仕事は色々あるが、『広報よこはま』は大切なものだとして認識している。

・重要で皆さんにお知らせすべき情報は、区版だけでは足りないなので、市版にも少しでも載せていただきたい。

(牧野委員)

- ・全方位的にさまざまな施策を行っているとの印象を持った。
- ・全区で導入され3か月経ったとのことだが、カタログポケットが伸びた要因は何か。

(事務局)

- ・LINE や各区でも周知しているので、少しずつ認知度が上がったという認識している。

(牧野委員)

・カタログポケットを実際に使ってみたが、ウェブと操作性が異なるので読みにくい部分もある。普段見ている他のウェブページのようにテキストが読みやすく、ウェブとシームレスで違和感なく使えるようになるとうい。

- ・広報アンケートで「よく読む記事」の中にある「施設情報」とは何か。

(事務局)

- ・ケアプラザや地区センターのイベント情報などのこと。

(牧野委員)

・見せ方の切り口の話だが、有名人・著名人に経験を語ってもらうなど、人にフォーカスするのがよい。いろいろな人に登場してもらうことで、共感を得やすいし、自分事として捉えてもらえる。

(布山委員)

・『広報よこはま』を読んでいるが、デザイン、特集の組み方、デジタル対応は高く評価できるので、自信を持っていただきたい。

・18～29歳で66%の人が広報紙を読まないのは大きな問題なので、時間をかけて対策をとっていく必要がある。年代によるクロス集計ができていないので、若い人が読んでいない理由を掘り下げて分析してほしい。

・アンケート分析で見えてこない部分は、若い世代に対してグループインタビューを行い、率直な意見を聞くなどの方法もある。

・コスパ・タイパを重視し、限られた時間で役立つ情報を取捨選択する若い世代には、現状の『広報よこはま』はコスパが悪い媒体と捉えられているかもしれない。しかし実際には、いろいろな情報が集約された『広報よこはま』はコスパが高い情報源・媒体とも言える。その情報を、時間の無い中で読ませる工夫などは改善の余地がある。

・そのためには若い世代が接しているウェブメディアの文法、具体的には見出しの言葉選び、少ない語数で情報を圧縮して伝える方法などを参考にする方法がある。

・若者は活字離れで本を読まない傾向があるが、漫画は読む。インターネットでも動画を検索して学び、情報を得ているので、漫画イラストなどのビジュアル情報の活用、動画コンテンツとの連携なども取り入れるとうい。

(林田委員)

・大前提として、紙媒体の『広報よこはま』が存在することの安心感は格別であることを職員の皆さんにお伝えしたい。

・ここ数年、デザインや写真などの工夫により魅力が増していると感じている。若い世代も年齢が上がり、いずれ生活情報が必要な時が来れば、手に取る時期が来るのではと思う。

・配送で自治会町内会の手を煩わしている、加入していないと届かないことは大きな課題であり、改善の余地がある。自治会町内会の高齢化や負担軽減については早急に検討すべきで

ある。

・ページ数を少なくする方法は無いのか、区版の特集・施設情報を求めている方も多いため、市版を減らすもの一考に値するのではと思う。ただ、ここ数年、市版の表紙やデザインは大きく改善し、目に留まる形に変わってきているので、この方針は続けていただきたい。

(壺阪委員)

- ・ウェブサイトは非常に便利で、18区版の全てやバックナンバーも見ることができる。
- ・その中で目に留まるのは市長対談で、「あぶない刑事」の舘さん・柴田さん、ビーコルセアーズの河村選手、コウケンテツさん、高城れにさんが横浜の魅力を語っており、誇らしい気持ちで読んだ。
- ・同じように横浜で起業した若者に東京にはない横浜の魅力を語ったり、横浜に移住してきた方に生活者としての魅力を語るインタビューなど通常と違った形式の記事を掲載すれば、読みごたえが増すと思った。

(片桐会長)

・続いて「報告」として、「横浜市ウェブサイトのデザインリニューアル」について事務局からお願いします。

(事務局)

「横浜市ウェブサイトのデザインリニューアル」について報告

(内田委員)

- ・障害者、福祉に関することを調べようとスマートフォンで検索をしたが、どこにあるのか分からなかった。「ライフシーン」という言葉の意味はよく分からなかったが、タップすると福祉の項目が表示された。日本人に対してはできるだけ漢字や日本語で載せた方がよいと思う。
- ・障害者が『広報よこはま』を読んで満足しているのか知りたい。
- ・例えばオストミーなど「障害者の暮らしについて、一般の方に知ってもらいたいことを広報紙で紹介してもらいたい」という障害者との声があった。また障害者の言いたいことを広報紙に載せられたらよいと私も考えている。

(事務局)

・スマートフォンでの検索では、検索結果で表示されたタイトル、概要文をみて判断されると思う。デザインは良くなったと思っているが、見出し付け方や文章の構成などにはまだまだ改善の余地がある。ページ作成、タイトルの付け方、ページ構成、概要文の内容などについて、研修などを通じて庁内の意識を向上させ、ページを改善し、皆さまが知りたい情報にアクセスしやすくしたい。

その他

(片桐会長)

・引き続き「その他」として、『地球の歩き方 横浜市』発行について事務局からお願いします。

(事務局)

『地球の歩き方 横浜市』発行について報告

	<p>.....</p> <p>(片桐会長) ・本日の議題以外で広報・広聴に関する事で、ご発言はありますか。</p> <p>(内田委員) ・『広報よこはま』に関して、障害者に対するアンケートを実施することはできるか。</p> <p>(事務局) ・ご意見をいただくことは改善につながるのので、どういう形で行うか、規模や手法などについて相談させていただく。</p> <p>.....</p> <p>(片桐会長) ・それでは、令和6年度第1回横浜市広報企画審議会を閉会します。長時間にわたり、活発なご意見をいただき、ありがとうございました。</p>
資料	<p>議題(1) ア 令和6年度広報事業の概要について</p> <p>議題(1) イ 令和6年度広聴事業の概要について</p> <p>議題(2) 「広報よこはま」発行事業について</p> <p>報告 横浜市ウェブサイトデザインリニューアルについて</p> <p>その他 記者発表資料（『地球の歩き方 横浜市』発行）</p>